# 電気自動車は、エコ・カーの夢を見るか。

茂呂　良彦

平成２３年５月末、新潟駅周辺で、街頭を実走行する日産・リーフを目撃した。実用走行であり、デモンストレーションではない。オーナーは自慢げであったが、その実どうなのだろう。

電気自動車で最も問題になるのは、ガス欠ならぬ電欠であろう。走行距離は、メーカー公称 JC08 設定 200km だそうだ。実際に、京都でリーフのタクシーに乗った家人は、ドライバーから、１回の充電で 70km 程度の走行しかできないと聞いたそうだ。そのうえ、専用急速充電器（約 140 万円）を使っても 80％の充電に 30 分かかり、家庭のコンセントからの通常充電では、８時間かかるという。これは単相 200V のコンセントからの充電である。メーカーは公表していないが、100V コンセントからでは 12～16 時間かかることが予想され、１晩で充電が終了しない可能性もある。途中で電欠するような車には乗る気にならない。

燃費を見てみよう。北米日産によれば、リーフの米国での公式燃費は、ガソリン換算 99 マイル/ガロン（約 42km/リットル）である。これも、計算上の燃費なので、実際はこの半分程度と見るのが妥当であろう。トヨタ・プリウスの実用燃費が約 22～28km/リットルなので、ほぼ互角である。

おまけに、ゼロ・エミッションと言っても、家庭に来る電気の半分以上は発電時に二酸化炭素を発生させているので、ゼロにはなり得ない。原子力発電所の安全性が信じられないほど低いことが露呈した現在、電気を浪費するのは愚の骨頂である。

現在のところ、私が次に乗る車の候補に電気自動車は登場しない。ただ、レクサス・ハリアー・エスティマにはあるが、プリウスには四輪駆動仕様がない。悩みはつきない。